

編集後記

今年は10月に入ってから台風21号と22号が相次いで週末に日本列島に來襲することになりました。幸いにして農林水産業への被害は、昨年ほどの甚大な規模には至りませんでした。それでも東北や東海、近畿等の各地では降雨と強風の影響を被ることになりました。

被災地での復旧対策が少しでも早く進むことを祈りたいと思います。

農林水産省が10月24日に公表した作物統計調査結果によれば、平成29年産の豆類の作付面積は、大豆が15万200haで前年産並み、小豆が2万2700haで7%の増、いんげんが7150haで16%の減、落花生が6420haで2%の減となっています。これらの豆類のうち、小豆、いんげん、落花生の作付面積は、平成29年産から調査範囲が全国から主産県に変更され、3年ごとに全国調査を行うことになりました。29年産は主産県調査なので、全国調査を行った28年産結果を用いて全国値を推計しています。ちなみに主産県は、以下のとおりです。

小豆：北海道、滋賀県、京都府及び兵庫県

いんげん：北海道

落花生：茨城県及び千葉県

一番、気になる収穫量については、概数値が来年の2月に公表される予定ですが、主産地の北海道では、10月15日現在で、小豆や菜豆（金時）の収穫作業が遅れているものの、現地からの情報では、今年の作柄は悪くなさそうです。今年の北海道の作柄は、近年、稀に見る不作であっただけに、今年の収穫が期待されます。

気象庁が発表した10月末の「向こう3カ月の天候の見通し」によれば、気温は北日本では平年並か高く、降水量は、北日本の日本海側で積雪量が平年並か少なく、太平洋側は平年並か多く、西日本の太平洋側では平年並か少ない見込みとなっています。これからの季節、ビタミンや食物繊維を多く含む豆類を摂取して体調を整え、寒さの訪れに備えたいものです。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071

FAX：03-5570-0074

豆類時報

No. 89

2017年12月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845

FAX：03-3584-1757